

# グループワークと相互評価を用いた 看護過程論の授業における学生の学び



朝日大学 保健医療学部看護学科

基礎看護学講座 清水 八恵子



ASAHI UNIV.

## 看護過程論(2年次 前学期 2単位)

### 1. 授業計画

#### 1) 授業概要

看護の対象を生活者としてとらえ、対象者の健康上の問題や生活上のニーズを明らかにし、適切な看護を系統的に実践するための思考過程を学ぶ。その学習過程において、看護観および人間観を振り返るとともに、論理的な思考力と判断力の基礎を養う。看護過程は実習の基盤となる思考過程であるため、事例に対する個人学習およびグループディスカッションを通して問題解決思考を養うとともに、課題の遂行に必要な協調性を養う。

#### 2) 到達目標

- (1) 看護過程の思考プロセスを述べることができる。
- (2) 対象者の情報をアセスメントツールに沿って整理・分析することができる。
- (3) 対象者を生活者としてとらえ、強みをふまえて全体像を記述することができる。
- (4) 看護問題を明確にし、優先順位を決定することができる。
- (5) 看護計画を立案し、実施・評価するための視点を述べることができる。
- (6) 自己学習をもとにして、グループディスカッションに主体的に参加できる。



ASAHI UNIV.

## 【看護過程に対するイメージ】：3段階評価

「難しい」89.7%、「難しくない」2.6%、「どちらともいえない」7.7%

## 【看護過程への興味】：4段階評価

「興味がある」15.4%、「どちらかといえば興味がある」37.1%、「興味がない」12.8%、  
「どちらともいえない」34.6%。

## 【看護過程で大変だと思うこと】

「情報収集」28名、「病態把握」36名、「アセスメント」63名、「関連図作成」53名、「計画立案」37名  
(清水ら、2023)

\* 看護学生が受講する看護過程演習に関する文献検討において、学生が看護過程に対する苦手意識を持っていることから、**【看護過程演習教授法の学習効果の検討】に焦点が**  
**あてられている文献が多い**ことを報告している（高岡ら、2021）



## 初学者に対する「授業方法の課題」

- **グループワークを導入しているケースが多い**

→ **メリット**：学生間での考え方の共有

**デメリット**：学生間の関係性

- 教員による指導の差異

- **グループワークでの学習効果の可視化**

「効果的」な  
グループワーク

「相互評価」の活用

◆ 考えられる課題をクリアするための試み



「グループワークと相互評価を用いた授業」



# グループワーク（「効果的」なグループワーク）

- グループ編成：14グループ（1グループ6名）
- 事例：心不全の患者、肺炎の患者、胃潰瘍の患者の3事例とし、各グループが1事例の看護過程を展開。
- 指定の事例を**個人課題として取り組み**、グループワークで看護過程を展開。
- 教員の役割：**直接的な指導は最小限**とし、**学生間の意見交換を促す指導**。
- 発表は①病態の理解と対象の全体像について7グループ、②看護計画の立案について7グループが発表。
- 公平性を保つ**ために各発表指定日を期限として全グループが発表資料を提出。



## 「相互評価」の活用

- 相互評価：グループワーク3回、自己のグループ発表時の計4回、相互評価(個人課題の取り組み、グループワークへの参加度等)を行う。
- 各グループで行う相互評価の平均点を個人の評価点とする。**
- 相互評価表は指定のファイルに入れ、提出日まで他者の目に触れないよう、各自で保管する。



相互評価表 一部抜粋

アセスメント	①	各Clusterの情報整理は適切か
	②	対象の病態をふまえてアセスメントがされているか
	③	生活史がアセスメントに活かされているか
	④	対象の強みをふまえてアセスメントされているか
	⑤	各Clusterの看護診断（問題）と他のClusterの関連は適切か
問題の明確化と全体像	⑥	各Clusterでの看護診断（問題）は適切か
	⑦	関連因子と看護診断（問題）の繋がりは明確か
	⑧	看護診断（問題）の表現は適切か
	⑨	全体関連図にアセスメント、関連因子が反映されているか
	⑩	看護診断（問題）の優先順位の根拠が理解できているか
看護計画立案	⑪	評価可能な長期目標が設定されているか
	⑫	評価可能な短期目標が設定されているか
	⑬	看護計画は5W1Hをふまえて立案されているか
	⑭	アセスメントと看護計画は繋がっているか
	⑮	個別性をふまえた看護計画が立案できているか
発表および態度	⑯	発表準備に対する取り組み姿勢
	⑰	発表時の取り組み姿勢
	⑱	個人課題に対する取り組み姿勢
	⑲	GW全体への取り組み姿勢と態度
	⑳	GW全体に対する貢献度



## グループワークでの学び（相互評価より一部抜粋）

<b>アセスメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスターごとに患者の発言などの情報もしっかり整理されていた</li> <li>・対象の強みも分析されていた</li> <li>・自分の考えたアセスメントと比較して考えることができた</li> <li>・自分とは違う視点から多くの意見を聞くことができた</li> <li>・<b>個人課題に丁寧に取り組んでいないと思った</b></li> </ul>
<b>問題の明確化～全体像</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントから全体像まで具体的に書かれていた</li> <li>・看護診断ブックを使って診断指標、関連因子を照合して看護診断を確認していた</li> <li>・関連図に関連因子がきちんと書かれていた</li> <li>・<b>関連図に看護診断が示されていないかった</b></li> </ul>
<b>看護計画立案</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントができていたが、看護計画に繋がっていなかった</li> <li>・具体的な看護計画になるよう意見を出してくれた</li> <li>・具体的な看護計画を立てていた</li> <li>・患者の強みをいかして計画を立てていた</li> <li>・<b>看護計画の内容が書かれていない部分もあった</b></li> </ul>
<b>発表および態度</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を出し合って協力して資料作成ができた</li> <li>・意見が異なると積極的に意見を出してくれた</li> <li>・<b>意欲的でない態度が残念だった</b></li> <li>・<b>発言が少なくあまりグループワークに参加していなかった</b></li> </ul>
<b>全体を通して</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークが進まなかったときに積極的に意見を出してまとめてくれた</li> <li>・意見を聞いて必要な時は見直し、グループをまとめてくれた</li> <li>・意見交流ができるよう、みんなに声をかけていた</li> <li>・意見交換で自分が思いつかない考えもあり、学ぶことが多くあった</li> <li>・個人課題があまりできていなくてもグループワークで情報を共有して理解していた</li> <li>・自分から意見を言わなくても、聞くとしっかりと答えてくれた</li> <li>・<b>個人課題はしっかりできているが、グループワークでの意見が少なかった</b></li> </ul>

## 授業での学び（レポートより一部抜粋）

<b>情報収集・アセスメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象に必要な援助を判断するためには情報収集が重要だと学んだ</li> <li>・Clusterの関連性をみて問題を統合する必要がある</li> <li>・必要な情報を収集することが対象の強みをいかし、個別性のある看護に繋がると学んだ</li> <li>・アセスメントしていく中で「もっと情報が必要」と考えることができた</li> </ul>
<b>関連図</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連性を見ることで対象に必要な看護の優先度を考えることができた</li> <li>・関連図を書くことで情報の整理ができた</li> <li>・関連図は大切だが書き方が難しかった</li> </ul>
<b>看護計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護計画には個別性が大切である</li> <li>・対象の強みをいかした看護計画を立案すること</li> <li>・<b>グループワークで複数の意見を聞くことでさらに良い看護計画について考えることができた</b></li> </ul>
<b>今後の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病態や検査データの知識を確実に身につけること</li> <li>・情報収集にはコミュニケーション力が必要だと考えたので意識していきたい</li> <li>・<b>偏った考え方に気づいたので直したい</b></li> <li>・<b>グループワークで自分の考えをしっかりと伝えられるようになりたい</b></li> <li>・人の考え方や物を見る力をつけたい</li> </ul>



ASAHI UNIV.

## 「看護過程論」授業方法への取り組み

- 全員が主体的かつ積極的に参加できるグループワークの方法
- 個々の学生の思考過程の向上に繋がる相互評価表の作成に向けた相互評価表の見直し
- 看護過程の展開が難しいと感じている学生の減少に向けた理解を助ける教材や学習方法の検討
- 指導方針の統一に向けた指導要領の作成



ASAHI UNIV.

ご清聴ありがとうございました



ASAHI UNIV.